



環境報告書2023

Environmental Report 2023



Top Message



2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、徐々にコロナ禍以前の生活に戻りつつあります。しかし緊迫するロシア・ウクライナ情勢の長期化、米・中国の貿易摩擦と覇権争い等、地政学的に混沌を極めていきます。これらの状況を背景に、各種原燃料・資材価格の高騰や物価上昇が進んでおり、世界経済の先行きに不透明感が増しています。

このような状況のなか、2023年4月から「クレハグループ新中長期経営計画」の初年度がスタートしました。クレハ環境は、「私たちは独自技術を駆使した環境・リサイクル事業を通じて、資源循環型社会の構築に貢献します」をビジョンに掲げ、2030年の「ありたい姿」を明瞭に打ち出しました。

産業活動を支える社会インフラとしての使命感を持ち、産業廃棄物の収集・運搬～中間処理～最終処分(埋立)／リサイクルの事業活動を、独自のノウハウを最大限に活用し、安全かつ確実に実践することで、「環境負荷低減」「減量化」「無害化」「再生・資源化」「カーボンニュートラル」に貢献するとともに、企業の持続的経済価値確保を図る必要があると認識します。『安全は全てに優先する』という安全衛生管理方針のもと、産業廃棄物処理事業、環境エンジニアリング事業、環境修復・復興関連事業の推進、及びグループ企業のひめゆり総業株式会社が運営する最終処分事業を通じて社会に貢献し続け、お客様や地域の皆様をはじめとする全てのステークホルダーの皆様から、より一層ご信頼をいただける会社を目指し、変化を恐れず果敢にチャレンジしてまいります。

今後とも、格別のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 並川 昌弘

Contents

クレハ環境の環境経営

事業の概要 2

環境対策投資 3

マネジメントシステム運用状況 4

環境に関する規制等の順守状況 5

廃棄物処理事業

インプット・アウトプットの状況 6

ウェステックいわき 8

ウェステックかながわ 10

各種排出物の測定・分析値等 12

低濃度PCB廃棄物無害化処理 14

リサイクルへの取り組み 15

環境エンジニアリング事業

VOC排ガス処理設備「GASTAK」 16

水処理設備 浄水・水質浄化 18

トピックス

安全文化の構築 19

さまざまな取り組み 20

ひめゆり総業の取り組み 26

会社概要

会社概要・
クレハグループレスポンスブル・ケア方針 28

沿革・お問い合わせ 29

企業理念

1. 人と社会そして地球環境との調和を大切にする会社をめざして、たゆまぬ努力を続けます。
2. 安全なサービスと商品を提供し、住みよい豊かな社会づくりに貢献します。
3. 地域に根ざした会社として、地域と共に発展し続けます。
4. 法令および社会的規範を遵守し、オープンな企業活動を通じて、社会から信頼される誠実な企業市民をめざします。
5. 社員一人一人が互いの人格、個性を尊重し、創造力とチームワークを最大限に高め、魅力あふれる企業風土をつくります。
6. 時代の流れを先取りした技術の研究と開発に、情熱を持って取り組みます。

編集方針

本報告書は、2022年度の当社のレスポンスブル・ケア(RC)活動をはじめとする様々な取り組みについてご紹介しています。

■ 参考にしたガイドライン

『環境報告書ガイドライン2012年度版』

『環境報告書の記載事項等の手引き(第3版)』…以上、環境省

■ 対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日

一部に2023年度内及び今後の予定を含みます。

■ 対象範囲

全部署

■ 免責事項

本報告書には、発行時点における計画または将来予測が含まれています。この将来予測については諸条件の変化により異なったものとなる可能性があります。また、記載の表やグラフの数値は算出方法の見直し等により、一部過年度データを修正している項目及び端数処理により合計に誤差が発生している項目があります。皆様にはご了解いただきますようお願いいたします。

当社のSDGs※への取り組みも紹介します。



※SDGs(持続可能な開発目標)とは

2015年9月に国連本部において採択された2030年まで続く国際目標です。世界経済危機・自然災害・環境・難民・貧困などのグローバルな問題の対処に向けた17の目標と169項目のターゲットに全世界が取り組むことによって「誰も取り残されない」世界を実現しようというものです。

事業の概要

主要な事業

①産業廃棄物の収集運搬・処分

福島県いわき市（ウェステックいわき）、神奈川県川崎市（ウェステックかながわ）に処理施設があり、処理の難しい廃棄物でもクレハ環境グループで一括処理が可能です。

多様化する産業廃棄物を安全適正に処理することを第一に考え、処理技術の研究開発、新しい技術の公開も行っています。

②環境修復事業

これまで培った独自の技術と多くの実績、ノウハウを基に環境の浄化回復を行っています。

汚染状況の調査から浄化対策の設計及び施工、浄化後のモニタリングまで一貫体制で行っています。

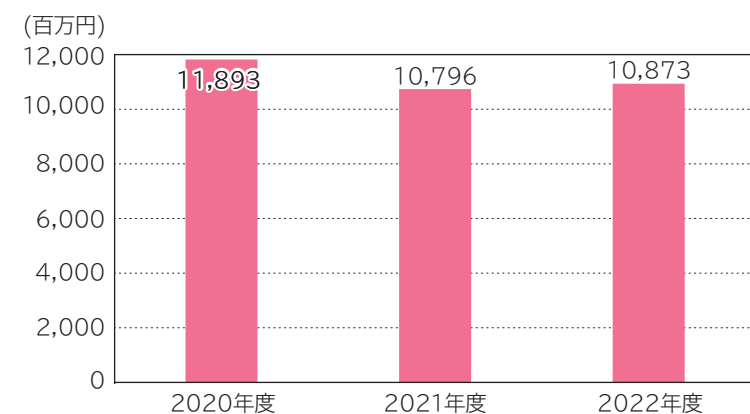
③環境エンジニアリング事業（建設業）

排ガス中に含まれる有機溶剤の回収や、有害・悪臭物質の除去を行う排ガス処理設備。浄水場における適正な水質管理の実現や、水質改善による水道施設の腐食防止などを目的とした環境対策設備の製造・販売を行っています。

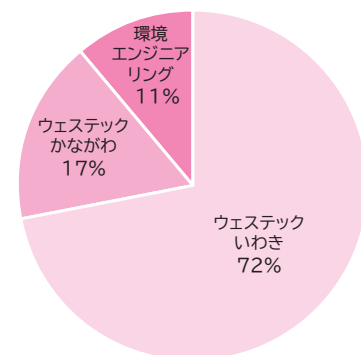
④発電事業

ウェステックかながわでは、廃棄物を焼却した熱で発電（サーマルリカバリー）を行っています。

売上高実績推移



部門別売上構成比（2022年度）



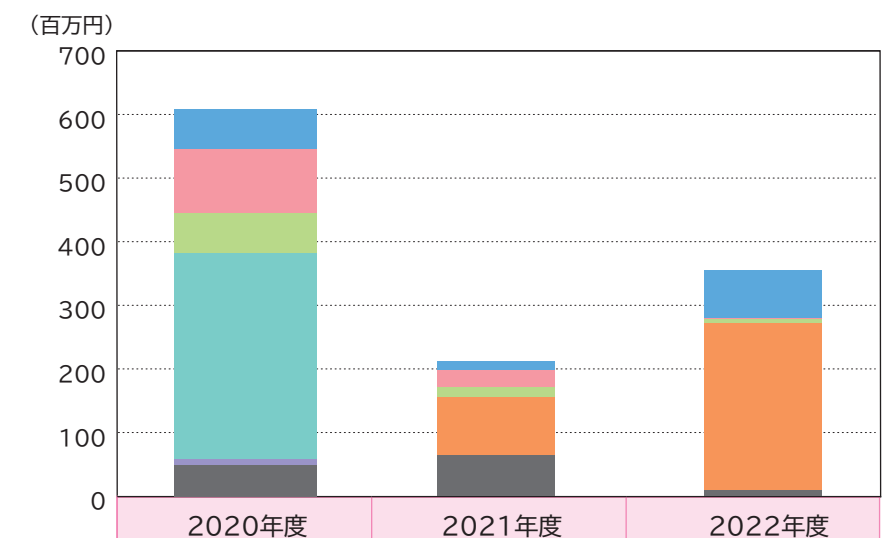
当社は、廃棄物処理という社会インフラの役割を着実に果たしつつ、企業の社会的責任としての脱炭素化にも意欲的に取り組み、次世代に向けた持続的な資源循環型社会の形成に貢献してまいります。

経営企画本部長 松岡 毅

環境対策投資

2022年度の環境対策として、355百万円を超える設備投資を行いました。

2021年度に引き続き、①「公害対策（水質）」として排水処理性能向上のための投資を行いました。また、④「省エネ・CO₂排出削減」ではウェステックかながわのサーマルリカバリー発電設備の一部更新を行い、環境への配慮と安定的なエネルギー供給の強化を図りました。



①公害対策(水質)	61.40	12.98	75.16
②公害対策(大気)	101.82	26.29	0.32
③公害対策(騒音、振動、悪臭)	61.78	16.17	7.86
④省エネ・CO ₂ 排出削減	0.00	90.94	261.56
⑤産業廃棄物・リサイクル対策	324.12	0.00	0.86
⑥土壌・地下水汚染対策	9.19	0.00	0.00
⑦その他	48.36	64.34	9.35
計	606.67	210.72	355.11

マネジメントシステム運用状況

マネジメントシステム基本方針

- 考え方／目標／目的
法令・規制・自主基準を順守し、マネジメントシステムによる品質・環境・労働安全衛生に関わる諸活動を通じ、地域および事業を取り巻くステークホルダーの信頼を深め、企業価値の向上に努める。
- 活動方針
 - 提供する製品・サービスの品質を向上させ、顧客満足度アップを目指す。
 - 環境事業の経験を活かし、環境保護に努める。
 - 安全衛生管理方針に基づき、安心安全で快適な職場づくりを行う。
特に墜落・転落、葉傷、転倒、重機災害の防止に努める。

2022年5月12日改定

環境マネジメントシステム(ISO14001)の運用状況

環境活動に関する 計画→実行→検証→改善 のプロセスを適切に管理することを目的として、環境管理委員会を毎月開催しました。

ISO14001の環境目標と結果

環 境 目 標	目 標 値	結 果	説 明
〈総務部〉 社内及び社外(主に会社周辺)の環境美化・環境保護に努める	地域美化活動の実施 (年7回以上)	達成	年7回以上の目標に対し、8回実施しました。
〈営業本部〉 廃棄物社外漏洩の発生件数ゼロ	0件	達成	廃棄物社外漏洩の発生件数ゼロを達成しました。
〈ウェステックいわき〉 環境苦情件数ゼロ	0件	達成	環境苦情件数ゼロを達成しました。
〈ウェステックかながわ〉 環境苦情件数ゼロ	0件	達成	環境苦情件数ゼロを達成しました。
〈環境技術部〉 外部工事における環境事故ゼロ	0件	達成	環境事故ゼロを達成しました。
〈環境営業部〉 CO ₂ 排出削減量	40 t／年	達成	GASTAK [※] の2基の販売によりCO ₂ 実質削減量：133 t／年に貢献しました。

※VOC排ガス処理設備

環境に関する規制等の順守状況

環境に関する法令・規制等の順守状況

当社はマネジメントシステム基本方針に「法令・規制・自主基準の順守」を掲げています。法令等の順守のために、国際規格ISO14001を活用し、法令・規制等の登録、順守状況を評価しています。評価の結果、2022年度も順守状態を維持していることを確認しています。

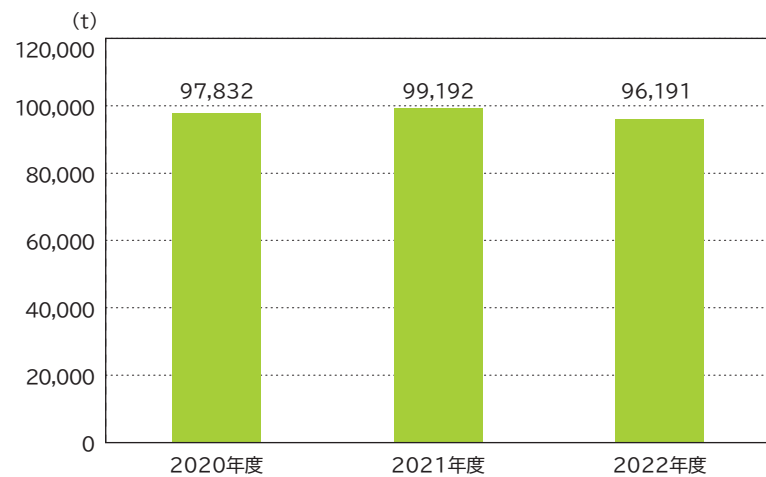
主な環境に関する法令・規制一覧

No	法律等の名称	内容等
1	大気汚染防止法 水質汚濁防止法 ダイオキシン類対策特別措置法 化学物質排出把握管理促進法 福島県、神奈川県、いわき市、川崎市環境関連条例 公害防止協定(いわき市)	大気汚染、水質汚濁の防止対策関連
		大気汚染、水質汚濁に係る測定、調査、届出関連
		悪臭の防止対策関連
		悪臭物質、産業廃棄物に係る測定、調査、届出関連
		振動騒音等の防止対策関連
2	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物処理施設の維持管理基準関連
		産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の保管基準関連
		産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の収集運搬業許可基準関連
		産業廃棄物管理票交付等状況報告関連
	金属等を含む産業廃棄物の行政による定期検査関連	燃え殻、脱水汚泥に係る埋立処分に係る判定基準関連
		温室効果ガス算定排出量関連
		危険物貯蔵所等の行政立入検査関連
		特定事業者のエネルギー使用量の定期報告義務関連
7	水銀廃棄物のガイドライン	水銀廃棄物の環境上適正な処理関連
8	低濃度PCB廃棄物収集・運搬ガイドライン、低濃度PCBの処理に関するガイドライン	低濃度PCB廃棄物収集運搬、処理の基準関連
9	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	フロン類の破壊量報告関連

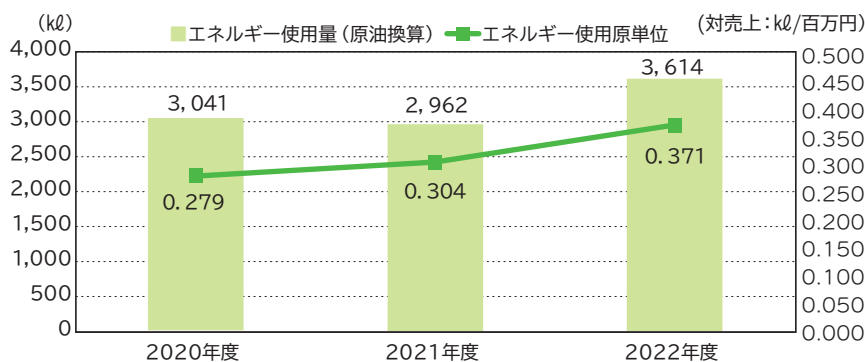
インプット・アウトプットの状況

インプット

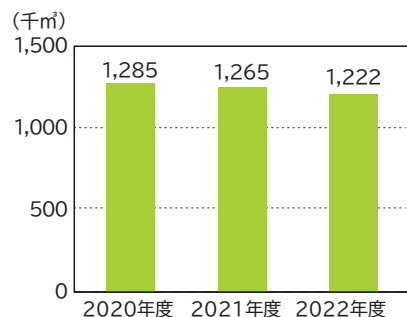
廃棄物受入量 96,191t



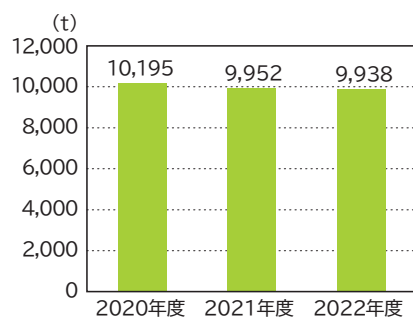
エネルギー使用量(原油換算) 3,614kℓ



水資源投入量 1,222千㎡



原材料の使用量 9,938t



廃棄物処理



ウェステックいわき

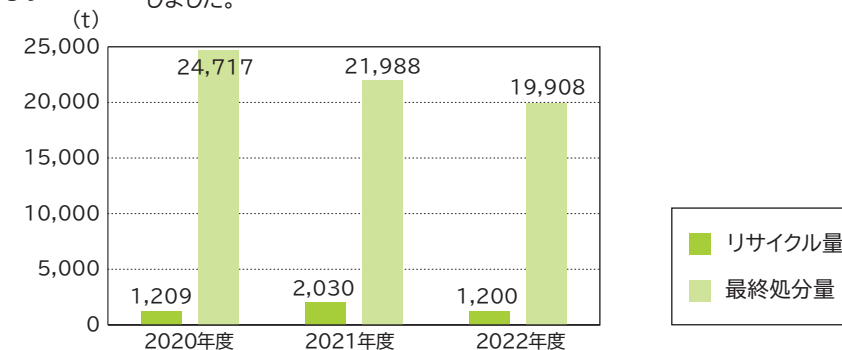


ウェステックかながわ

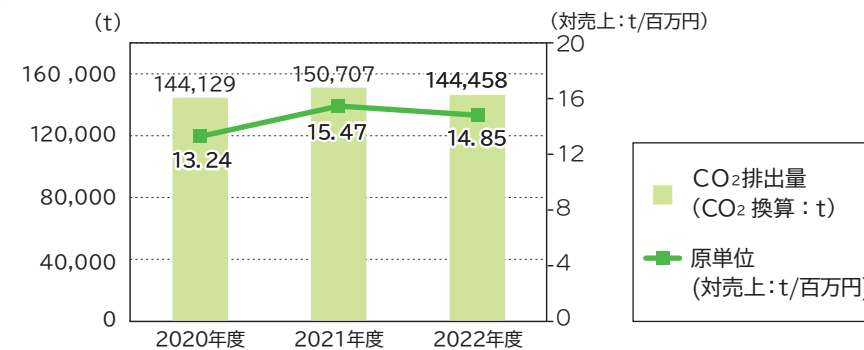
アウトプット

廃棄物排出量 21,108t

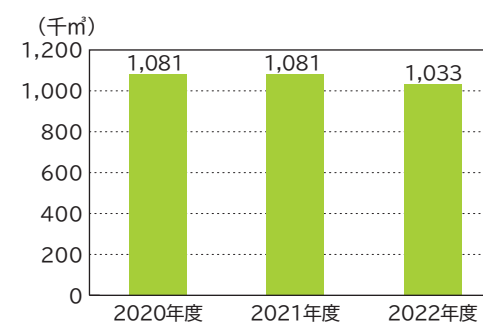
中間処理後の廃棄物排出量は廃棄物受入量に対し21.9%まで減量しました。
また廃棄物排出量のうち5.7%相当をリサイクル処分とし、資源循環に貢献しました。



温室効果ガス排出量(CO₂換算) 144,458t



排水量 1,033千㎡



ウェステックかながわではクローズドシステム(排水を外に出さず再利用するシステム)を採用しているため、排水量はウェステックいわき分のみ計上となります。



廃棄物の適切な処理方法の選定と処理を担当するウェステック事業部は、いわきの得意とする難処理物といわれる環境負荷物質の無害化処理と、かながわでの焼却時に発生する熱エネルギーの有効利用を行うことで、サステナブルな社会実現に貢献し続けてまいります。

ウェステック事業部 副事業部長 鈴木 康浩

ウェステックいわき

ウェステックいわきの7号焼却炉、8号焼却炉では、塩素・シリコン類を含む廃油、汚泥、廃プラスチック、廃酸、廃アルカリ及び医療系廃棄物を中心に各種廃棄物を焼却処理しています。



7号焼却炉

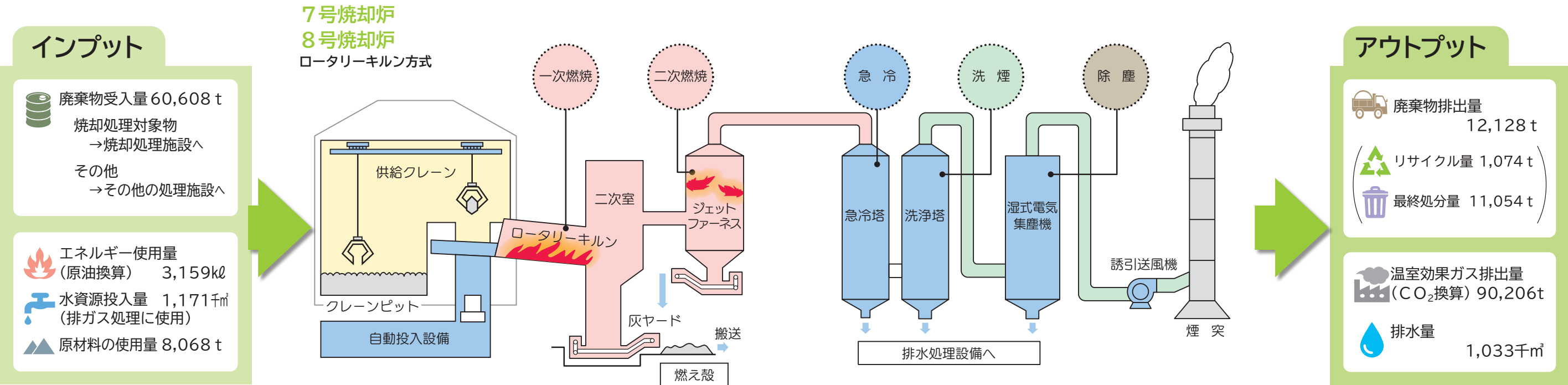


8号焼却炉



設備管理部設備企画課は、施設設備の新規設置やプロセス改善を担当しております。
施設の改良・整備を通して、廃棄物処理技術の向上と環境負荷低減に取り組み、「安全・安心・安定操業」に貢献してまいります。

ウェステック事業部 設備管理部 副部長
箱崎 忍

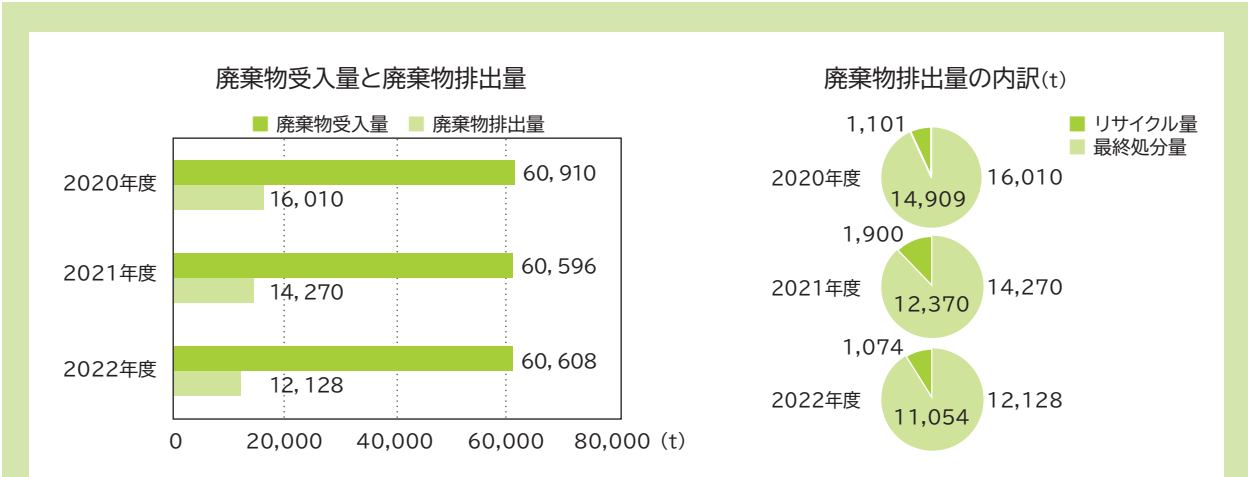


7号焼却炉	
汚泥の焼却施設	182㎡/日
廃油の焼却施設	110㎡/日
廃プラスチック類の焼却施設	104t/日
シアン化合物の分解施設	202㎡/日
産業廃棄物の焼却施設	238t/日

8号焼却炉	
汚泥の焼却施設	182㎡/日
廃油の焼却施設	118㎡/日
廃プラスチック類の焼却施設	104t/日
シアン化合物の分解施設	266㎡/日
産業廃棄物の焼却施設	238t/日



排水処理性能向上のため脱水機を増設しました。
(写真：増設した脱水機建屋)



ウェステックかながわ

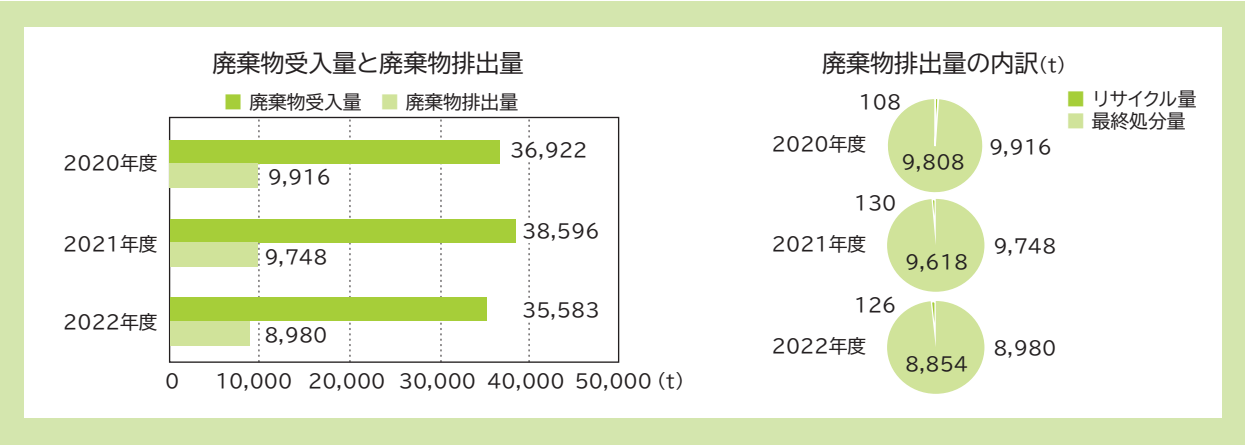
ウェステックかながわでは、産業廃棄物を焼却処理するとともに、排熱を有効に利用して発電しています。

熱量や性状が多様な廃棄物からより多くの電力を供給できるよう、運転ノウハウを駆使して、化石燃料の利用が少しでも削減されるよう努めています。



前処理グループでは焼却炉の安定稼働のため、搬入された廃棄物のチェックを日々行っております。また現場におけるクレハ環境の顔としてお客様の期待に沿えるようサービスの向上に努めております。重機災害ゼロを筆頭に安全第一で取り組んでまいります。

ウェステック事業部 かながわ処理部 処理技術課
前処理グループリーダー 島田 界人



インプット

廃棄物受入量 35,583 t

焼却処理対象物
→焼却処理施設へ

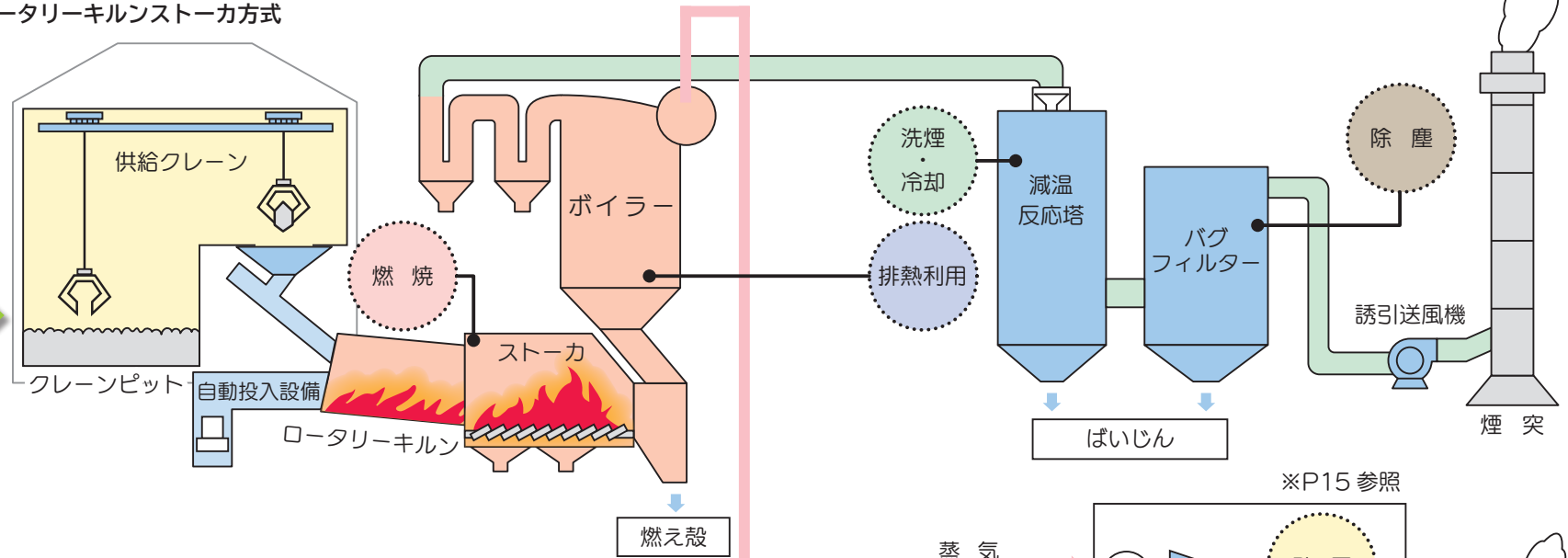
その他
→その他の処理施設へ

エネルギー使用量
(原油換算) 455kℓ

水資源投入量 51千㎡

原材料の使用量 1,870 t

1号焼却炉
2号焼却炉
ロータリーキルンストーカ方式



アウトプット

廃棄物排出量 8,980 t

リサイクル量 126 t

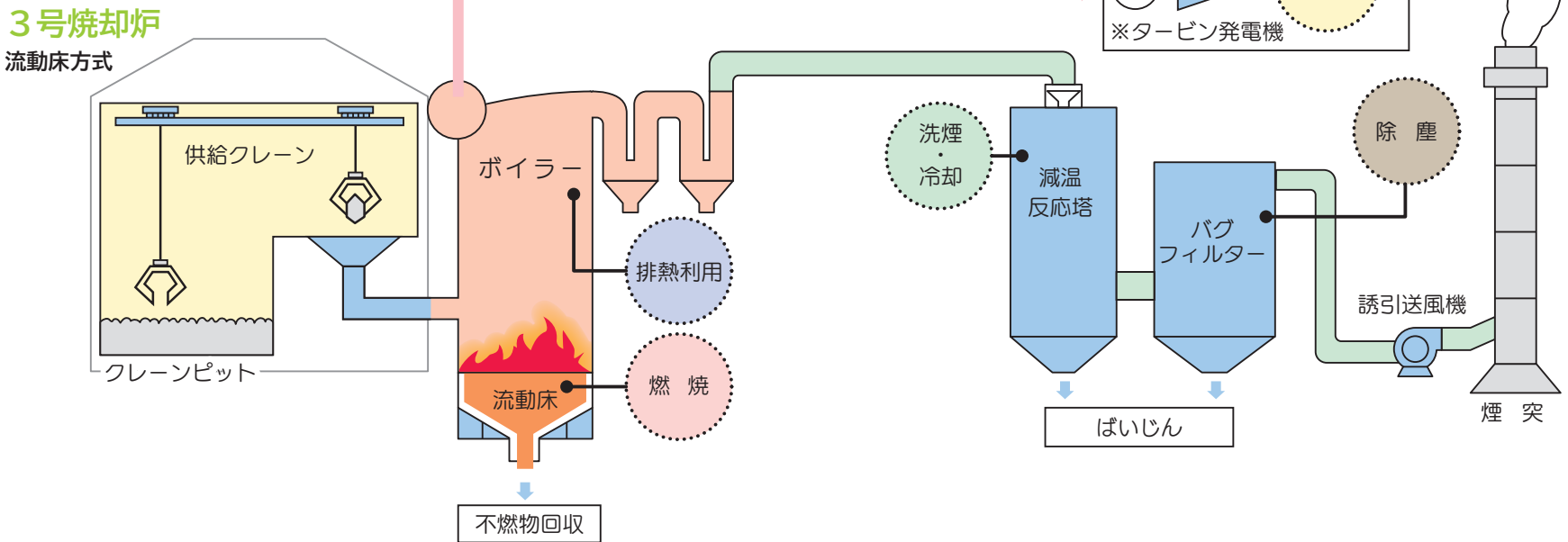
最終処分量 8,854 t

温室効果ガス排出量
(CO₂換算) 54,247 t

排水量※ 0㎡

1号焼却炉・2号焼却炉計	
混合焼却	140t/日
汚泥の焼却施設	112㎡/日
廃油の焼却施設	150㎡/日
廃プラスチック類の焼却施設	80t/日
その他産業廃棄物の焼却施設	230t/日

3号焼却炉	
混合焼却	70t/日
汚泥の焼却施設	48㎡/日
廃油の焼却施設	75㎡/日
廃プラスチック類の焼却施設	40t/日
その他産業廃棄物の焼却施設	115t/日



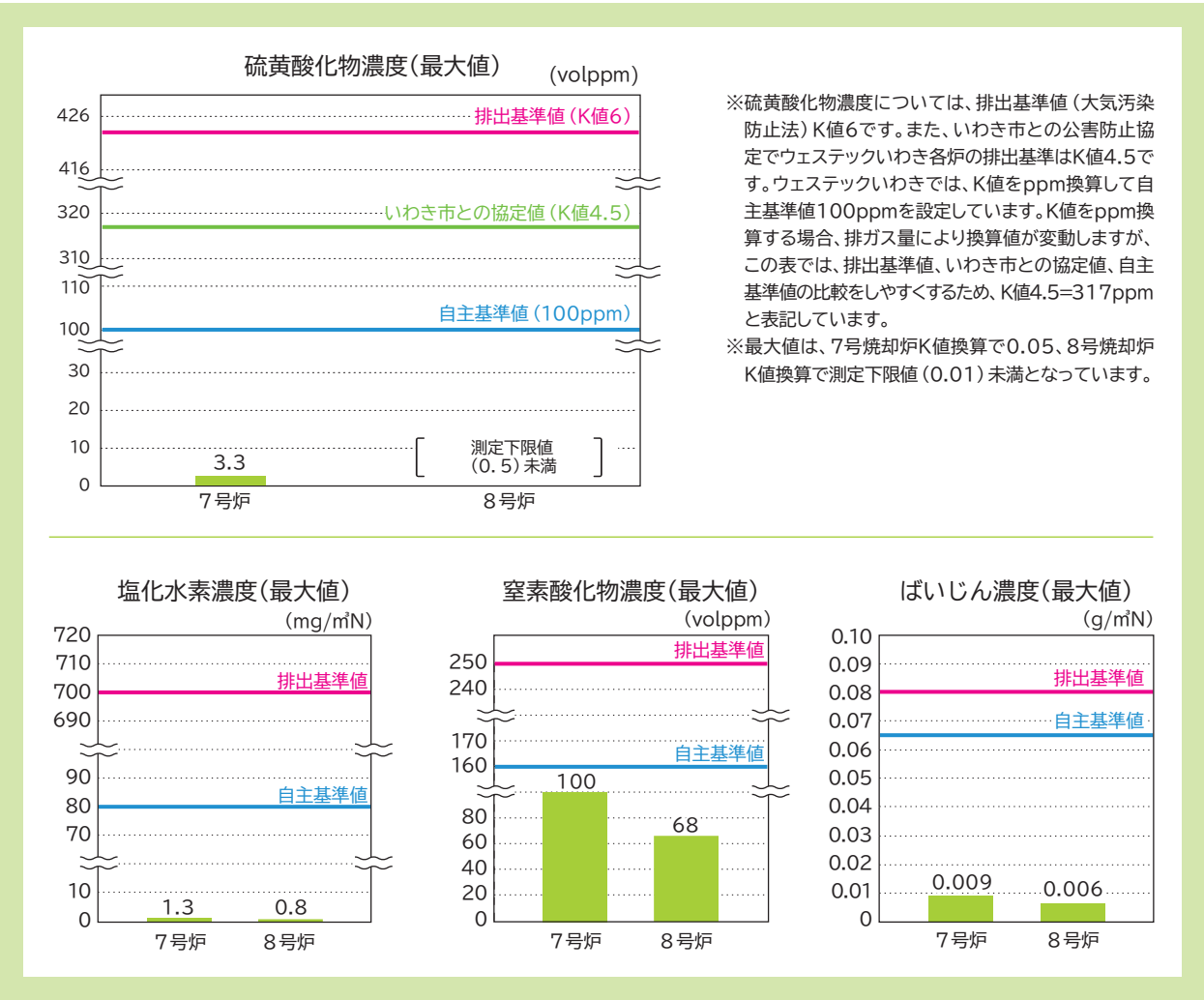
川崎物流センター

ウェステックかながわに隣接した廃棄物の積替え・保管施設です。小型車両で搬入された廃棄物を当社大型車両でウェステックいわきに搬送し、処分します。運搬効率に配慮し、施設を運用しています。

各種排出物の測定・分析値等

2022年度の焼却炉排煙の硫黄酸化物濃度、塩化水素濃度、窒素酸化物濃度、ばいじん濃度は、廃棄物処理施設の適正な維持管理により全て自主基準値以下で法令等の排出基準を順守しています。
※排出基準値は、大気汚染防止法の排出基準値を記載しています。

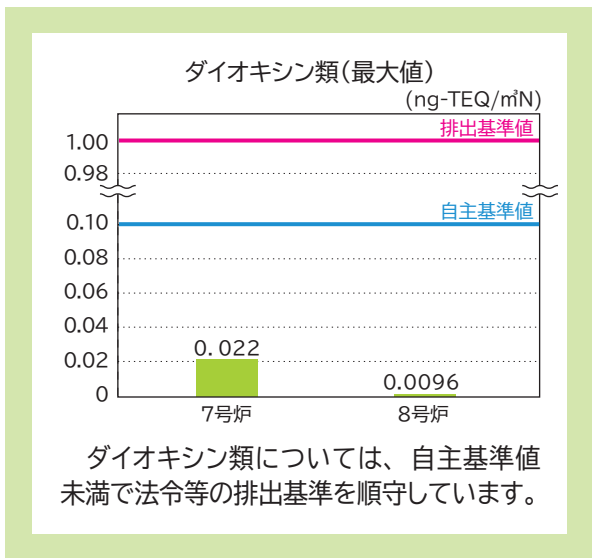
ウェステックいわき



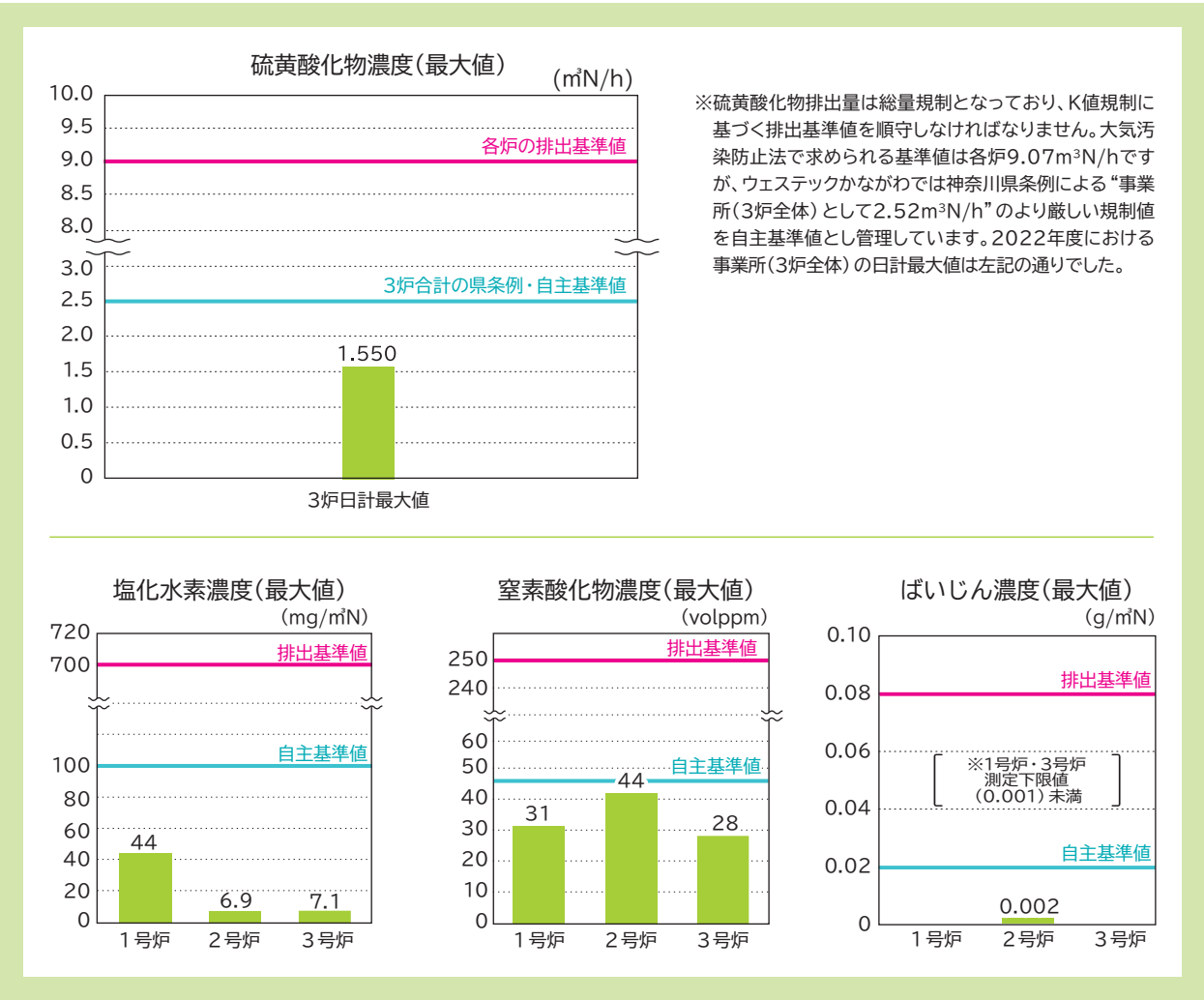
化学物質の排出、移動量

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) 該当品目は31種類あり適切に届出を行っています。ここでは大気汚染防止法附則の優先取り組み物質の中からダイオキシン類と指定物質のベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンについて記載しています。

ダイオキシン類移動量 503mg-TEQ/年	ベンゼン排出量 5.2kg/年
トリクロロエチレン排出量 5.2kg/年	テトラクロロエチレン排出量 5.2kg/年



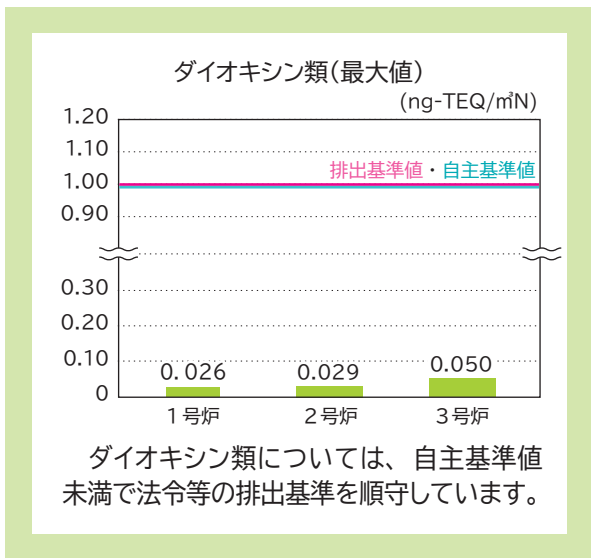
ウェステックかながわ



化学物質の排出、移動量

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) 該当品目は1種類あり適切に届出を行っています。

ダイオキシン類移動量
5,711mg-TEQ/年



低濃度PCB廃棄物無害化処理

無害化処理の概要

環境大臣の無害化認定を受けた以下の施設で、処理を行っています。

項 目	内 容
施設の名称	7号焼却炉（ロータリーキルン式焼却炉） 8号焼却炉（ロータリーキルン式焼却炉、固定床炉）
施設の種類	廃ポリ塩化ビフェニル等 ポリ塩化ビフェニル汚染物 又はポリ塩化ビフェニル処理物の焼却施設
施設の場所	ウェステックいわき
収 集 運 搬	あり

筐体前処理建屋



固定床炉

下記に記載する、すべての低濃度PCB廃棄物を処理することができます。

	低濃度PCB廃棄物	
	微量PCB汚染廃電気機器等	低濃度PCB含有廃棄物
低濃度 PCB廃油	微量PCB汚染絶縁油 電気機器又はOFケーブルに使用された絶縁油であって微量のPCBに汚染されたもの	低濃度PCB含有廃油 PCB濃度が5,000mg/kg以下の廃油等（主として液状物）
低濃度 PCB汚染物	微量PCB汚染物 微量PCB汚染絶縁油によって汚染されたもの	低濃度PCB含有汚染物 PCB濃度が100,000mg/kg以下の汚泥、紙くず、木くず、繊維くず、廃プラスチック類 金属くず、陶磁器くず、コンクリート破片等の不要物（金属くず等）に付着したもののPCB濃度が5,000mg/kg以下のもの
低濃度 PCB処理物	微量PCB処理物 微量PCB廃油、低濃度PCB汚染物を処分するために処理したもの	低濃度PCB含有処理物 PCB廃棄物を処分するために処理したものであって、PCB濃度が5,000mg/kg以下のもの（金属くず等は付着物のPCB濃度）

大型廃電気機器の解体施設 W.I.Lセンター※

※「W.I.Lセンター」とは、ウェステックいわきロジスティクス（Wastech Iwaki Logistics）センターの略です。

小型～大型廃電気機器の処理について、お客様のニーズに合わせた最適なソリューションを提案しています。

W.I.Lセンターでは機械解体による作業性向上と保管スペースの活用によって、より迅速かつ柔軟な処理サービスの提供が可能です。

これまで培ってきた処理技術とW.I.Lセンターの運用により、法で定められた期限内の低濃度PCB無害化処理に貢献しています。



機械解体による
作業性向上

W.I.Lセンター



低濃度PCB処理課は、低濃度のPCBに汚染された廃棄物の受入、保管、前処理、処理、搬出を業務とし、すべての工程を安全最優先で且つ速やかに行うことで地域をはじめとする事業を取り巻くステークホルダーの信頼を深め、企業の価値の向上に努めています。

低濃度PCB廃棄物の処理は私たちにお任せを。今日も一日ご安全に。

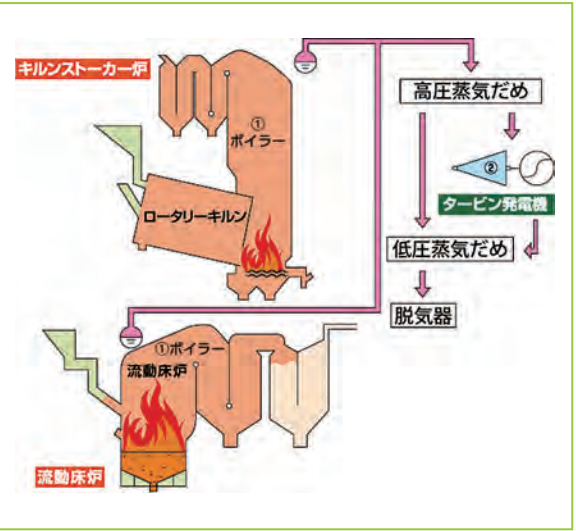
ウェステック事業部 いわき処理部 低濃度PCB処理課長
居倉 永朋

リサイクルへの取り組み

ウェステックかながわにおける廃棄物発電(サーマルリカバリー)

ウェステックかながわは、焼却炉3基の排熱を回収するサーマルリカバリーにより最大4,800kWhの発電能力があります。

発電した電力はウェステックかながわで使用し、余剰電力は売電しています。余剰エネルギーを電力の形で社会に還元し、環境負荷低減に貢献しています。



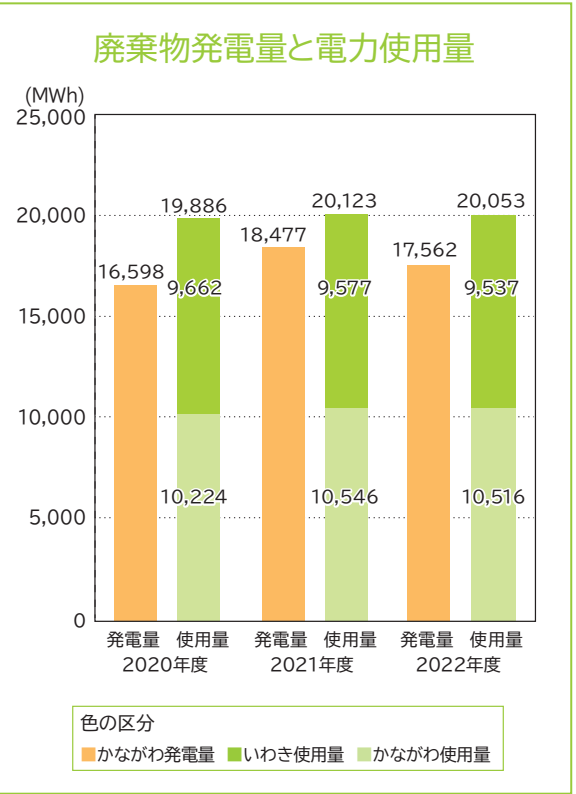
①ボイラー

燃焼ガスを冷却し、発生蒸気を場内設備及び発電設備に供給します。



②タービン発電機

ボイラーにて発生させた蒸気により発電を行います。発電した電力は、プラント内で使用し、余剰電力は売電します。



VOC排ガス処理設備「GASTAK」



環境営業部では、ユニーク＆画期的な技術を活かした環境関連設備の提供を通じ、大気及び水環境を保全し持続可能な社会の構築をお手伝いしております。さらに次世代を見据え新たな用途開発や情報発信も積極的に行っております。

環境エンジニアリング事業部 環境営業部
大阪出張所長 宮部 裕子

有機溶剤の回収、有害・悪臭物質の除去

当社の「GASTAK」は、排ガス中に含まれる有機溶剤の回収や、排ガス中の有害・悪臭物質の除去を目的とした画期的な排ガス処理設備です。



GASTAK®

GASTAKの概要

GASTAKは、(株)クレハ製球状活性炭(BAC)を吸着材として使用し、工場の排気に含まれる有機溶剤(VOC：揮発性有機化合物)を除去すると同時に、液体の状態で回収します。回収したVOCは高品質であるため、工場の製造工程において再使用(Reuse)したり、機器洗浄や助燃剤などの他用途で再利用(Recycle)することができ、VOCの消費量を削減(Reduce)します。

工場から排気されるVOCを含むガス

《主な適用実績》

- トルエン
- 酢酸エチル
- MEK
- キシレン
- IPA
- 臭気成分
- その他VOC

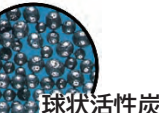


《販売実績：498基》

- 半導体・機器洗浄・化学プラント他：455基
 - 印刷（ドライラミ・グラビア印刷）：43基
- 2022年3月 現在



GASTAK



球状活性炭
BAC

クリーンなガス

同時に実現

VOCの液化回収



燃焼設備からGASTAKへの置き換えで想定されるCO₂排出量削減の効果

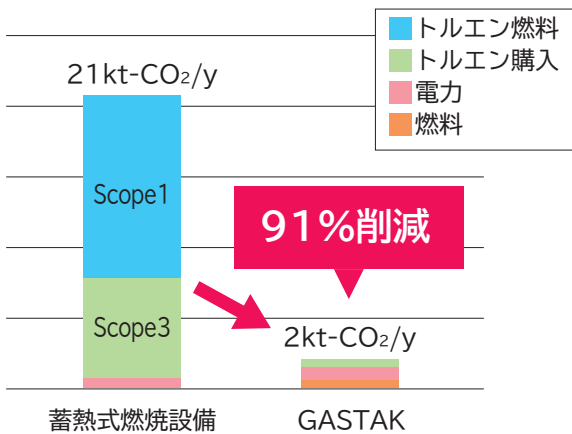
温室効果ガスの国際的な算定基準となっているGHGプロトコル※では、サプライチェーンのCO₂排出量をScope-1（事業者自らによる温室効果ガスの直接排出）、Scope-2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）、Scope-3（事業者の活動に関連する他社の排出）に分類しています。

工場の排気に含まれるVOCは多くの場合、燃焼設備により酸化分解され、CO₂として排出されます。この燃焼設備をGASTAKに置き換え、VOCを資源として再使用または再利用することにより、VOC燃焼に伴うCO₂排出量(Scope-1)とVOCの新規購入に伴うCO₂排出量(Scope-3)を大幅に削減することができます。

下図に代表的な燃焼設備(蓄熱燃焼設備)とGASTAKのCO₂排出量の比較を示します。

※GHGプロトコル：温室効果ガス(Greenhouse Gas：GHG)の排出量を算定・報告する際の国際的な基準。

国際的に認められた温室効果ガス排出量の算定と報告の基準として、その利用の促進を図ることを目的に策定された。2011年10月に公表され、現在、温室効果ガス排出量の算定と報告の世界共通基準となっているもの。



CO₂ 排出量比較

前提条件

排ガス風量	1,300 Nm ³ /min
入口 トルエン濃度	1,500 ppm
除去率	95 %
年間稼働時間	8,000 h

CO₂排出量

蓄熱式燃焼設備	21 kt-CO ₂ /y
GASTAK	2 kt-CO ₂ /y
削減効果	19 kt-CO ₂ /y

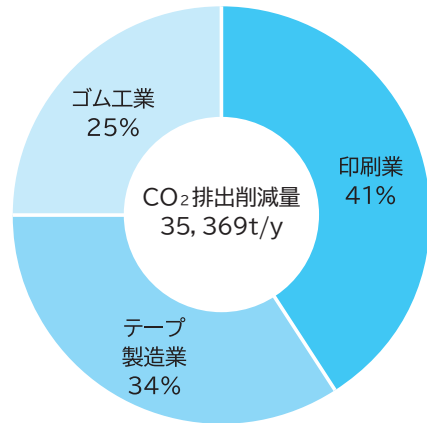
CO₂排出抑制への貢献

排ガス中に含まれるVOCを、処理せずに放出すると大気中で分解され、最終的にはCO₂に変化します。

一方、回収設備でVOCを液化回収すると、排ガス中のVOCをCO₂に変化させることなく再利用も可能となり、排ガス処理に起因するCO₂の発生量を削減することに貢献しています。

当社がこれまでにVOC回収目的で販売した事例を基に、推定される年間CO₂排出削減量をグラフで示します。

当社はこの分野においても、引き続き環境負荷の低減に貢献していきます。



VOC回収目的販売機(計17基)による
年間CO₂排出削減量(推定)

水処理設備 浄水・水質浄化



環境技術部では、独自の技術を活かした大気環境及び水環境関連設備の計画・設計・施工・試運転・メンテナンスまでを責任ある一貫体制で提供し、継続的な地球環境保全と負荷低減へ向けて貢献してまいります。

環境エンジニアリング事業部 環境技術部
水環境技術課 副課長 小泉 哲也

水質改善による水道施設の腐食防止

水道事業体向け水酸化カルシウム溶液注入設備「オネストライマー」は全国各地の浄水場に導入実績があります。(総計108機)

水質改善による水道施設(浄水配水設備)の腐食防止や延命化に効果を発揮し、安全でおいしい水の供給に寄与しています。



水酸化カルシウム溶液注入設備「オネストライマー」
(提供：唐津市久里浄水場)

水道原水のカビ臭・異臭味物質の除去

通常の浄水処理で除去することができないカビ臭や異臭味物質が水道原水中に含まれている場合、活性炭の吸着による除去が有効です。

当社独自の急速スラリー形成器を備えた「ドライ粉末活性炭注入設備」であれば、スムーズに活性炭をスラリー化し、効率よく吸着除去できます。

また、粉塵発生や配管詰まりも無く、容易に運転管理が可能です。



ドライ粉末活性炭注入設備
(提供：いわき市平浄水場)

水道原水の適正な水質管理

浄水場が取水する原水において、高いpH値をコントロールする必要がある場合、当社では安全性・取扱性に優れた独自の「炭酸ガス注入設備」を提供することで、浄水場における適正な水質管理の実現を支えています。

炭酸ガス注入設備
(提供：米子市戸上水源地)



生態系に配慮した藻類の抑制

河川や湖沼の富栄養化が進むと、湖沼・貯水池では藍藻類によって引き起こされる「アオコ」が問題となります。

「シャロークリーン」は、アオコ発生の必須要素の一つである「光」に着目し、水面の一部を必要最小限で遮光します。これにより水中の生態系を破壊せずに藻類の異常増殖を抑制します。



シャロークリーン(提供：男鹿市根木浄水場)

水処理技術と社会貢献について

自然環境において、あらゆる生物と関係を保ちながら循環している水。この大切な水資源が、河川や湖沼などの汚染により深刻な危機にさらされています。

水道管の腐食を防止して赤水の発生を防ぎおいしい水を安定的に送る、水道原水中のカビ臭・異臭味物質の除去によりおいしい水を安定的に送る、汚染された廃水を浄化し美しい河川を維持する、閉鎖性水域汚濁の象徴であるアオコを駆除し美しい湖沼を取り戻すなど、当社は独自の技術で広分野に、潤いのある水環境の提供・維持に引き続き貢献していきます。

安全文化の構築



「安全はすべてに優先する」という基本理念の下、効果的なリスクアセスメントや、コミュニケーションを意識したパトロールなど、これからも全従業員が元気で出社し、笑顔で帰宅することを目的とした安全衛生活動を継続してまいります。

環境安全本部長 白旗 保光

安全はすべてに優先する

安全衛生管理方針『安全はすべてに優先する』を実現すべく活動しています。

『安全はすべてに優先する』を安全衛生管理方針に掲げ、その実現に向けて労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)をベースとした事業活動・運用管理を遂行し、「安全文化の構築」や「安全意識の底上げ」に取り組んでいます。

「安全意識の底上げ」策の1つとして、2021年度に立ち上げたヒヤリハット活動推進委員会運営による「ヒヤリハット抽出活動の全員参加」に注力しました。直接部門だけでなく間接部門においても日常のかつ積極的に危険源を察知することで、一人ひとりの安全意識が底上げされ、職場の安全状態が確保されるよう働きかけを行いました。

当社は従業員だけでなく、当社に関係する方々の誰一人として安全面・衛生面で痛い思いをすることなく、「笑顔で出社し、笑顔で家に帰る」ことが当たり前実践できるよう、『安全はすべてに優先する』を肝に銘じ、安全衛生活動を進めてまいります。

2022年度の取り組み

- ①災害発生危険個所の抽出と防護対策の実施
- ②外部知見を活用した安全文化の構築
- ③安全管理体制の強化
- ④安全衛生教育の充実化
- ⑤社長、取締役や部課長等による階層別パトロール
- ⑥リスクアセスメントの充実とレベルアップ
- ⑦全員参加型ヒヤリハット活動の推進
- ⑧安全意識高揚に向けた「朝の社内放送」(輪番制)



さまざまな取り組み

総合防災訓練

11月16日、いわき市勿来消防署のご協力のもと、ウェステックいわきにて総合防災訓練を行いました。2022年度は、地震により①廃油の漏洩と火災、②廃油タンク防油堤のひび割れが発生、という2つの想定に対応する訓練を行いました。



消防訓練の様子(ウェステックいわき)

9月10日、川崎市千鳥地区防災協議会のご協力のもと、ウェステックかながわにて総合防災訓練を行いました。2022年度は、場内の前処理済みの廃棄物から出火したことを想定し、消火活動、場内工事業者・搬入車両の避難誘導、負傷者の救護活動をシナリオに組み込んだ訓練を行いました。



消防訓練の様子(ウェステックかながわ)

第3回安全大会

1月18日、本社会議室にて第3回安全大会が開催されました。大会では、まず環境安全部長が2022年に当社で発生した人身災害の分析結果を報告しました。続いて、安全衛生に関する改善報告について表彰する表彰式が行われ、総提出数132件の中から12件が表彰されました。会の最後には、お招きした東京大学田村昌三名誉教授による特別講演が行われました。



改善報告表彰の受賞者(ウェステックいわき)



改善報告表彰の受賞者(ウェステックかながわ)

災害発生件数・ヒヤリハット(潜在災害)抽出状況

いわき、かながわともに場内における災害発生抑制に向けて、管理職による工場内パトロールやその他のパトロールの仕組みを活用し、様々な視点から危険箇所・危険状態を発見し、それらに対する安全対策を講じています。

当社従業員による災害発生件数 (派遣社員、パート、アルバイト等を含む)

事故内容	年度	2020	2021	2022
死亡災害		0	0	0
休業災害		2	1	1
不休災害		6	4	3
赤チン災害		0	1	4
重大ヒヤリ事故		1	2	1
合計		9	8	9

休業災害 4日以上休業の災害
不休災害 1～3日休業の災害、休業0日だが継続的に通院の必要なケガ
赤チン災害 休業を伴わない災害(病院で検査・治療(通院不要のみ)した軽度のケガ、応急処置したケガ)
重大ヒヤリ事故 人身災害には至らなかったものの、大変危険な事象が生じたと会社が判断した事故

ヒヤリハット抽出件数

事故の型	年度	2020	2021	2022
挟まれ		23		
巻き込み		0		
転倒		173		
転落墜落		48		
打撲激突		81		
飛来落下		41		
眼部受傷		15		
薬傷火傷		51		
感電事故		1		
交通事故		391		
設備損害		7		
その他		64		
合計		930		

事故の型	年度	2021	2022
1 墜落・転落		87	107
2 転倒		361	395
3 激突		150	230
4 飛来・落下		101	119
5 崩壊・倒壊		14	39
6 激突され		42	70
7 はさまれ・巻き込まれ		38	53
8 切れ・こすれ		49	43
9 踏み抜き		7	9
10 おぼれ		0	0
11 高温・低温の物と接触		69	70
12 有害要因との接触		84	118
13 感電		6	3
14 爆発		0	3
15 破裂		0	0
16 火災		5	8
17 交通災害(道路)		631	731
18 交通災害(その他)		9	4
19 動作の反動・無理な動作		42	51
20 その他		75	80
21 分類不可		9	24
合計		1,779	2,157

※2021年度より「事故の型」を厚生労働省の分類へ変更しました。

環境修復部による漏洩対策訓練



油のふき取り作業を行う従業員

6月3日、W.I.Lセンターで環境修復部が漏洩事故を想定した防災訓練を行いました。

今回はフォークリフトで運搬中の機器から残油が漏洩するという事故を想定し、残油の拡散防止処置、現場での交通誘導の仕方や関係部署への連絡体制について確認を行いました。

さまざまな取り組み

交通安全講話

12月5日、いわき南警察署の東交通課長を講師にお招きし、交通安全講話を行いました。福島県内の事故発生状況やよく見られる交通違反について最近の傾向を解説していただきました。



講話を行う東交通課長

産業医による衛生講話



講話を行う釣巻医師

10月27日、当社の産業医である釣巻医師による講話を行いました。「近視は悪い眼？」をテーマに、近視、遠視、乱視、老視について、ピントが合わなくなるしくみを図を交えてわかりやすく解説していただきました。

泡消火訓練に協力

3月15日、いわき市消防本部が泡消火薬剤を用いた訓練を行いました。2021年度に引き続き、協力の要請を受け、訓練の実施場所として当社ウエステックいわきの場内建屋を提供する形で訓練に協力いたしました。



泡消火訓練の様子

厚生労働大臣感謝状を受賞

第58回献血運動推進全国大会において、当社は献血運動に積極的に協力し他の模範となる実績を残した団体として厚生労働大臣より感謝状を授与されました。

当社では6月と12月の年2回、献血の団体協力を行っています。今後も団体協力を通じて献血運動に積極的に取り組んでいきます。



献血の様子（12月）

功労者、優良従業員として4名表彰



前列左から室岡さん、市川さん、鈴木さん、島田さん(感謝状)、市川さん

7月19日、公益社団法人神奈川県産業資源循環協会よりウエステックかながわの従業員4名が表彰されました。室岡桂さん、鈴木徳雄さん、市川智則さんの3名が優良従業員表彰、そして市川勇治さんが功労者表彰を受賞しました。この表彰は、協会運営に功績を残した従業員や成績優秀で他の模範となる従業員に贈られるものです。

また、神奈川県の産業廃棄物処理に関する支援が認められ、同協会より感謝状を授与されました。

優秀安全運転事業所表彰

3月23日、いわき南警察署にて優秀安全運転事業所表彰式が行われました。これは、自動車安全運転センターが発行する運転記録証明書を活用して職場における交通違反や交通事故の発生を防止した優秀な事業所を表彰するものです。

今回は当社の環境エンジニアリング事業部が3年間連続で事故・違反抑止に優秀な成績を残したとしてプラチナ賞を受賞しました。またウエステック事業部と管理本部は、1年間事故・違反抑止に優良な成績を残したとして銅賞を受賞しました。



江連いわき南警察署長、松岡事業部長(当時)

さまざまな取り組み

食でつなぐ支援の輪 フードドライブ活動

ウェステックかながわは『かながわSDGsパートナー』登録企業として神奈川県と連携しSDGs活動の普及促進に取り組んでいます。

その一環として従業員を対象にフードドライブ活動を行い、食品の提供等を通じて地域の生活困窮者を支援しているフードバンクかわさきに、集まった食品や日用品、計31品目総重量47kgを寄付しました。

フードドライブ活動

各家庭で使い切れない未使用食品を持ち寄り、それらをまとめてフードバンク団体や地域の福祉施設・団体などに寄贈する活動のこと



フードバンクかわさき(右)に寄付しました

なこそ授産所へ寄付

なこそ授産所は、障がいを持つ方々がさまざまな仕事を通じて地域での自立を目指すとともに、社会へ貢献している施設です。

2022年度もなこそ授産所へ古切手や食料品などを寄付しました。

廃棄物資源循環学会でポスター発表

9月20日から22日まで宮崎大学で開催された第33回廃棄物資源循環学会研究発表会において、「産業廃棄物処理施設におけるPFOA含有廃棄物の分解処理について」という演題でポスター発表を行いました。



発表を行った加藤さん
(ウェステック企画部)

展示会へ出展

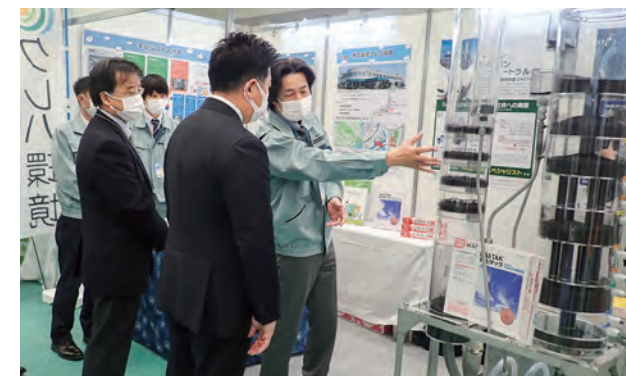
2022年度も当社は学会発表や各展示会に積極的に参加しました。展示会では、廃棄物の適正処理について、また当社のVOC排ガス処理設備「GASTAK」や浄水設備について紹介を行いました。



「ささきくん」

「ささきくん」が初登場！

当社オリジナルキャラクター廃棄物コンシェルジュ「ささきくん」が初登場しました。動画の中で産業廃棄物処理に関するお悩みをわかりやすく解説しました。



第15回川崎国際環境技術展 「GASTAK」スケルトン展示機

「GASTAK」スケルトン展示機

VOC排ガス処理設備「GASTAK」のスケルトン展示機が初登場しました。実際に動く様子を確認することができるため、来場者の方にも興味を持って声をかけていただき好評でした。

出展した展示会

ケミカルマテリアル Japan2022 -ONLINE-

期間：2022年10月17日～28日
(オンライン開催)

2022名古屋水道展

期間：2022年10月19日～21日
(ポートメッセなごや)

第15回川崎国際環境技術展

期間：2022年11月17日～18日
(カルッツかわさき)

エコプロOnline 2022

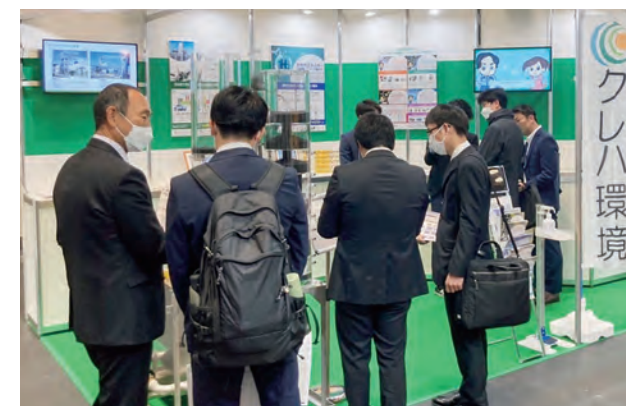
期間：2022年11月25日～12月16日
(オンライン開催)

プラントショー OSAKA 2022

期間：2022年12月7日～9日
(インテックス大阪)



2022名古屋水道展



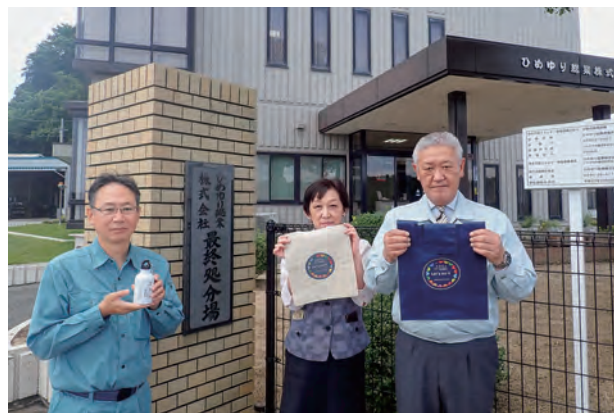
プラントショー OSAKA 2022

ひめゆり総業の取り組み

当社グループ会社であるひめゆり総業株式会社は1968年に創業し、福島県いわき市で管理型最終処分場の運営管理を行っている会社です。

2023年度より新たな経営理念である「環境事業を通して 社会と産業に貢献し 豊かな自然を未来に繋げます」を掲げ、産業廃棄物を「適切」に処分し、「自然」に還すという事業を社員一丸となって行っています。

また、環境省が策定した環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証を2009年12月に取得し、登録事業者として継続的に環境を改善するための取り組みを行っています。



左から山野辺マネジメントシステム部長、鈴木総務係長、佐川総務部長



平太郎第三期処分場

ひめゆり総業SDGs宣言



ひめゆり総業では、2022年10月よりSDGs活動をスタートしました。

これまで、環境に関する活動は行ってきましたが、SDGs活動として取り組むのは初めてのことです。すでに行っている活動と今後行っていきたい活動を整理し、活動計画としてまとめました。

従業員の理解を深めるため、社内勉強会や説明会を行い、社内一丸となって活動していきます。

2023年春にはSDGs活動の一環として、エコバッグを制作しました。デザインは従業員から公募し、社内選考会を行いました。



制作したエコバッグ

ひめゆり監査委員会

ひめゆり総業では、近隣住民代表の方々に処分場の維持管理状況を監査していただく「ひめゆり監査委員会」を年2回開催しています。

2022年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に十分配慮し、4月23日と10月29日に開催しました。



委員会の様子

防災訓練

10月21日、処分場内の埋め立て場所から出火、という想定に対応する訓練を行いました。

新たな試みとして、災害発生現場と本社事務所をライブ映像でつなぎながら情報をやり取りし、報告や指示の精度向上を図りました。



重機を用いた砂消火訓練

交通安全教育

夏季と冬季の2回にわたり、交通安全教育を行いました。

2022年度は、いわき市内で撮影されたドライブレコーダーの映像を使用して、ヒヤリ直前で映像を止め、この後どんなヒヤリが発生するかを問いかけるなど、受講者が身近な場所で起こるかもしれないヒヤリを自ら考える時間を設けることで、危険に対する感受性が向上しました。

衛生週間標語コンテスト

10月1日から7日まで全国労働衛生週間が実施されることに合わせ、従業員から衛生標語を募集し社内コンテストを行いました。

大賞に選ばれた標語は社内に掲示し、従業員の目に触れることで意識向上を図っています。

『運動・食事・休養で ストレス溜めない 健康職場』



標語を印刷したボトルを従業員へ配布しました



会社概要

商 号	株式会社クレハ環境
本 社 所 在 地	〒974-8232 福島県いわき市錦町四反田30番地
主 な 事 業 所	本社、ウェステックいわき、ウェステックかながわ
設 立	1971年12月1日
資 本 金	2億4,000万円
従 業 員 数	389名(2023年3月末)
主 要 な 事 業	産業廃棄物の収集運搬・処分、環境修復事業 建設業(環境エンジニアリング)、発電事業他

クレハグループ
レスポンスブル・ケア方針

- ① 国際規則や法令を守ります
- ② 地球環境に配慮し、安全な操業をします
- ③ 安全な製品を社会に提供します
- ④ 環境・安全の情報を管理し、役立てます
- ⑤ 社会とのより良い関係を築きます

レスポンスブル・ケア(RC)とは…

化学物質を製造または取り扱う事業者が自己決定・自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から、製造、流通、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ライフサイクルにわたって「環境・安全・健康」を確保する改善活動を継続的にを行い、社会との対話・コミュニケーションを行うことです。
クレハグループは1995年にRC活動の実施を社会に対して宣言しました。

■クレハグループRC協議会構成図



沿革

1971年	12月	呉羽梱包株式会社設立
1975年	10月	社名を呉羽業務株式会社に改める
1977年	3月	福島県産業廃棄物収集・運搬業・処分業許可取得
1984年	7月	社名を呉羽環境株式会社に改める
1986年	10月	7号焼却炉 自社開発により設置、稼働
1993年	5月	8号焼却炉 自社開発により設置、稼働
1998年	3月	ISO14001認証取得
1998年	4月	7号焼却炉 自社開発により更新
2006年	4月	社名を株式会社クレハ環境に改める
2006年	6月	資本金を2億4000万円に増資
2010年	4月	かながわ事業所を開設
2011年	4月	川崎物流センターを開設
2012年	4月	環境エンジニアリング事業を開始
2014年	4月	ウェステックパークをウェステックいわきに、 かながわ事業所をウェステックかながわに改める
2017年	3月	ISO9001認証取得
2019年	4月	ひめゆり総業株式会社を完全子会社化 W.I.Lセンター開設 ISO45001認証取得
2021年	12月	創立50周年を迎える

営業に関するお問い合わせ

産業廃棄物に関するお問い合わせ	環境エンジニアリングに関するお問い合わせ
営業本部 TEL 0246-63-1331	環境営業部 TEL 0246-63-1358
FAX 0246-63-1332	FAX 0246-63-1359

本書に関するお問い合わせ

総務部	TEL 0246-63-1231
	FAX 0246-63-1232

本環境報告書2023は、ウェブサイトでも公開しております。
<https://www.kurekan.co.jp/information/>

本社(福島県いわき市)



いこいの広場



展示コーナー



地域交流ホール

ウェステックかながわ(神奈川県川崎市)



管理棟ホール



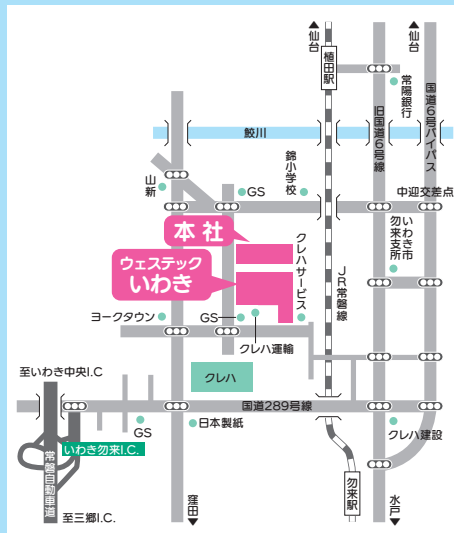
見学者通路(4階)



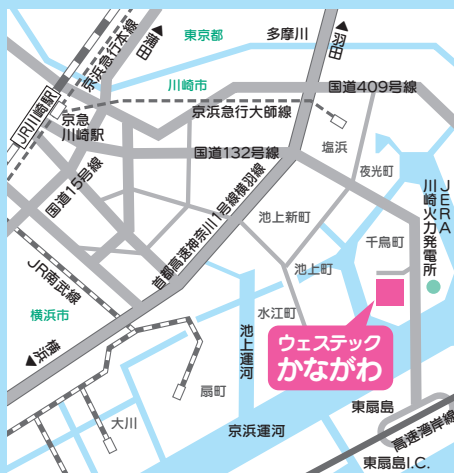
研修室



本 社
 所在地：福島県いわき市錦町四反田30番地
ウェステックいわき
 所在地：福島県いわき市錦町落合136番1号



ウェステックかながわ
 所在地：神奈川県川崎市川崎区千鳥町6番1号



株式会社クレハ環境

福島県いわき市錦町四反田30番地
<https://www.kurekan.co.jp/>

◆お問い合わせ先◆

総務部

TEL 0246-63-1231

FAX 0246-63-1232

2023年10月発行

Fontworks
UDFont

読みやすい、フォント
 ワークスUD (ユニバー
 サルデザイン) フォントを
 本文に使用しています。



植物油溶剤のインキを
 使用しています。